Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

合田 直弘

今回のこのコラムの主役は、7月11日にカナダのウッドバイン競馬場で前人未踏の大記録を打ち立てた、エマ・ジェーン・ウイルソン騎手（42歳）である。

この日の開催の第4競走に組まれていた3歳牝馬限定メイドン（AW6．5F）で、パーフェクトレディービー（牝3）に騎乗した彼女は、道中3番手追走から直線で抜け出して優勝。1着賞金4万3080カナダドル（＝3万1596米ドル）を獲得したウイルソン騎手の、デビュー以来の通算収得賞金が、米ドル換算で9015万2742ドルに到達。1980年代から今世紀初頭にかけて活躍したジュリー・クローンの持つ9012万6584ドルを抜き去り、北米における女性騎手の歴代最多賞金記録を樹立したのである。

ジュリー・クローンは、自分にとって「神様のような存在」と日頃から語っていたウイルソンは、記録達成後のインタビューで、「私は今、込み上げている感情を必死に抑えている」と言いながら、涙をこらえつつ「この瞬間は、何ものにも代えがたいほど、私にとって意味あることだ」とコメントしている。

ウイルソンがデビューしたのは2004年8月27日だ。実は、ジュリー・クローンが引退を宣言したのは2004年7月8日で、わずかなところで二人のキャリアは重なっていない。むしろ、クローンが表舞台から姿を消すと、あたかも入れ替わるかのように登場したのがウイルソンで、クローンとの間に不思議な因縁があるとウイルソンが感じているのも、この辺りに一因がありそうだ。

デビューした時、ウイルソンは22歳だった。初騎乗の5日後に、彼女は23歳の誕生日を迎えているから、プロ騎手のデビューとしては異例の遅さである。乗馬クラブに入って馬に乗り出したのは9歳の時で、彼女はたちまち馬の虜になった。そして、ずっと馬のそばにいる人生を送りたいと願った。

若くして騎手の道を目指さなかったのは、子供のころからの願いを、違う形でかなえたからだ。オンタリオ州南部のブランプトンにあるハイスクールを卒業すると、馬のことをもっと知りたいと考えた彼女は、オンタリオ州東部のノースグレンヴィル市にあるグエルフ大学に入学することになった。グエルフ大学の本拠地は、言うまでもなくオンタリオ州南西部の街グエルフにあったが、同校のエクワイン・マーネージメント学部が、ノースグレンヴィル市を拠点としていたのである。

最高学府で学問を修めた後、彼女はウッドバイン競馬場でトラックライダーとしての職を得て、騎手を志すことになったのだ。

デビューは遅かったが、ブレークするのは早かった。プロとして乗り始めて2年目の2005年、167日間のウッドバイン開催を通じて彼女は175勝をあげ、見習い騎手の身でありながら、開催リーディングを獲ってしまったのである。1956年に開業した、カナダにおける主要競馬場ウッドバインで、女性がリーディングを獲得したのは、これが初めてだった。この年のソヴリン賞最優秀見習い騎手賞を受賞したウイルソンは、以降20年にわたって、カナダにおける競馬の顔として活躍を続けている。

2007年には、カナダにおけるダービーに相当するクイーンズプレートを、マイクフォックスに騎乗して優勝。2018年には、カナダの競馬発展に貢献したとして、アヴェリノゴメスメモリアル賞を受賞している。イギリスのアスコットを舞台とした世界騎手選抜戦シャーガーCにも、7回参戦。2015年には、彼女がキャプテンを務めた女性騎手チームが優勝。シャーガーCで女性チームが優勝したのは、それが初めてのことだった。

7月11日の段階で、ウイルソンの通算勝利数は1903を数える。順調なら、来年には通算2000勝が達成されるはずで、その時にはまた、世界の競馬界で大きな話題になることだろう。